盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

～人を育み未来につなぐまちづくり～

令和７年11月21日
盛岡市教育委員会
西部公民館

市政記者クラブ加盟社　各位

# 「西部点字パソコンサークル・ステップ」が文部科学大臣表彰を受賞しました

盛岡市西部公民館を拠点として活動している社会教育関係団体（サークル団体）「西部点字パソコンサークル・ステップ」は、日頃の障害者の生涯学習支援活動が評価され、文部科学大臣表彰を受賞することになりました。

「西部点字パソコンサークル・ステップ」は、1995 年（平成７年）に西部公民館主催の「点字パソコン学習会」の受講後に、西部公民館を拠点として活動を始めました。学習や生活の場で活用される情報を点訳し提供することに取り組み、要望に沿って点訳した図書等の無料貸出や寄贈、自治体情報誌や選挙関連資料等などの点訳活動をしています。特に、視聴覚支援学校と連携し、子どもたちのニーズに沿った点訳を実施しています。

本市公民館で活動する社会教育関係団体（サークル団体）の励みとすべく、取材及び報道につきまして、御協力をお願いいたします。

記

【件　名】　令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

【被表彰者】　西部点字パソコンサークル・ステップ　ほか全国 50 団体

【表彰式】　令和７年 12 月９日（火）　13:00～13:30　（表彰式）
13:30～14:00　（記念撮影・伝達式）
14:30～16:30 頃　（事例発表会）

【開催方式】　対面（文部科学省東館３階講堂）とオンライン（YouTube ライブ）

【表彰主管】　文部科学省総合教育政策局

【添付資料】　表彰決定通知（写）、被表彰者一覧

【問い合わせ】
盛岡市西部公民館
担当：菅原（すがわら）
田山（たやま）
TEL：019-643-2288

写

７文科教第１１５０号
令和７年１０月２８日

岩手県教育委員会
教育長　　殿

文部科学省 総合教育政策局長
塩 見　み づ 枝
（公印省略）

令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る
文部科学大臣表彰の被表彰者・活動の決定について（通知）

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰要項に基づき、貴職から御推薦いただいた候補について、下記のとおり被表彰者として決定いたしましたので、通知いたします。

併せて、表彰式について御案内いたしますので、御確認くださいますようお願い申し上げます。

記

【被表彰者・活動名】
宮古音声訳の会

西部点字パソコンサークル・ステップ

【　表　彰　式　】

１．日　　時　　令和７年１２月９日（火）　13:00～13:30　（表彰式）
13:30～14:00　（記念撮影・伝達式）
14:30～16:30頃　（事例発表会）

２．開催方式
対面（文部科学省東館３階講堂）と オンライン（YouTubeライブ）

３．備　　考
- 会場参加の場合を除き、表彰状や表彰目録については、表彰式開催日の前週を目途に指定の送付先にお送りする予定です。
- 記念撮影・伝達式は、会場参加いただいた場合のみ参加可能です。
- 記念撮影への参加は、各団体代表者一名となります。
- 当日の様子については、後日、文部科学省ホームページにて動画等を掲載予定です。

＜本件担当＞
文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室
TEL：03-6734-3613（直通）　　E-mail：sst@mext.go.jp

（別紙）

# 令和７年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰　被表彰者

| 番号 | 推薦者名 | 被表彰者名 | 表彰種別 | 通算年数 | 活動内容等 | 活動分野 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 青森県 | 宮内　善浩 | 功労者 | 22 | 車いすテニス体験会や大会の開催を通じて、運動機会が少ない参加者に対して運動機会ならびにテニス技術の習得機会を提供してきた。2023年度に三沢市の協力を得て、三沢市車いすテニス協会を設立し、障害をもつ人たちの生涯学習活動の環境づくりにも尽力している。また、各種国際大会にも帯同するなど、車いすテニス界の発展に寄与している。 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 2 | 青森県 | むつ・下北地区レクリエーション協会 | 功労者 | 45 | 2007年から障害者も健常者も共に楽しむという観点からNPO法人との共催でニュースポーツ体験会を開催。市内の全ての高校からボランティアを募り、幼児から高齢者、障害者も健常者も共に楽しめる活動を長年にわたり開催し通算46回を数える。また、社会福祉協議会が開催する障害者と健常者との交流事業にも協力し、年２回参加、それぞれ43回を数える。 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 3 | 岩手県 | 宮古音声訳の会 | 功労者 | 32 | 宮古音声訳の会は、「視覚障害者の情報収集などの一助になること」を目的に発足したボランティア団体である。行政の広報誌や議会だより、福祉情報等を、音声デイジー図書ＣＤとして作成し、声の便りとして届けると共に、利用者との交流を深めながら、継続した活動を展開している。 | 情報保障 |
| 4 | 岩手県 | 西部点字パソコンサークル・ステップ | 功労者 | 30 | 視覚障害者の学習や生活の場で活用される情報を点訳し提供することに取り組んでいる。要望に沿って点訳した図書等の無料貸出や寄贈、自治体情報紙や選挙関連資料などの点訳をしている。また、市民向けに点字体験講座や点訳ボランティア養成講座を実施し、人材育成にも努めている。 | 情報保障<br>普及啓発<br>学習<br>文化芸術 |
| 5 | 秋田県 | ドリームチャレンジdayへGo! | 奨励活動 | 3 | 障害福祉サービス事業所による作業販売を通じて、交流と学びの機会を提供するとともに、木工ワークショップなどを通して、職業スキルの向上や定着を支援している。また、地域の方々が障害のある方と関わり、障害者への理解を深めることを目的とした夏祭りや芸能文化発表会などのイベント開催や駅舎清掃、花苗設置などの地域美化活動を実施している。 | 学習<br>普及啓発 |
| 6 | 山形県 | 認定特定非営利活動法人<br>アジェンダやまがた | 功労者 | 14 | 「音楽を奏で合うことで個の違いを許し合い共生する」という理念のもと、障害児・障害者を対象とした音楽による「療育」と「教育」を実践している。支援にあたっては独自に構築したメソッドを活用するとともに、障害児への音楽の支援方法の研究、障害者対象の楽器や教材の開発にも取組み、一人ひとりの障害や個性、課題に合わせた支援を行っているほか、インクルージョンの視点をもったイベントを開催し、障害に対する地域の理解の向上にも寄与している。 | 学習<br>文化芸術<br>普及啓発 |
| 7 | 茨城県 | 美野里点訳サークル「てんとうむし」 | 功労者 | 26 | 茨城県立点字図書館の図書やカタログ、歌集などの点訳を行っている。小美玉市社会福祉協議会の「ふくしの出前講座」に登録して、小中高等学校の点字体験学習やアイマスク体験学習の指導を実施している。それらの活動のスキルアップや準備、打合せのための定例勉強会を月２回開催している。 | 普及啓発<br>学習<br>情報保障 |
| 8 | 群馬県 | 邑楽町手話サークル「すずらん」 | 功労者 | 35 | ・ろうあ者問題を地域において解決する立場から、ろうあ者と交流を深め、手話技術の向上や課題・問題の解決に向けた様々な事業を行っている<br>・定例活動日は、毎週火曜日（第５週はお休み）19:30～21:00 | 普及啓発<br>学習 |
| 9 | 千葉県 | 八街和楽太鼓 | 功労者 | 40 | 和太鼓の演奏について月２回１回あたり３時間程度練習を行なっており、夏祭り等年間３０回程度、イベントで披露している。 | 文化芸術 |
| 10 | 千葉県 | ダウン症を持つ子と親の会　ジュピター | 功労者 | 16 | ダンスや季節行事、保護者交流を柱とし、年齢や障害の有無を問わず、誰もが学び・表現・つながれる「生涯にわたる活動の場」としている。特に卒業後や成人後も継続できることを重視し、表現を通じた社会参加や地域との関わりを育んでいる。子供たちだけでなく、保護者や地域の人々も、共に成長し合える場を目指し、活動を続けている。 | 普及啓発<br>スポーツ<br>情報保障 |
| 11 | 神奈川県 | 座間市手話サークル　星の会 | 功労者 | 51 | 手話学習を通じ聴覚障害者への理解を深めるとともに、手話技術の向上及び普及を進め、よって福祉の向上を推進する。 | 学習<br>普及啓発 |
| 12 | 富山県 | 富山三つ星山の会 | 功労者 | 26 | 月に１回、ハイキングやボルダリング、ブラインドスキー等のアウトドア活動を通して、健常者と障害者が交流する機会を設けている。仲間とのふれあいと、郷土の魅力に触れることを大切にしながら活動している。 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 13 | 石川県 | 小松市手をつなぐ育成会　こぶし青年教室 | 功労者 | 57 | 学校を卒業した知的障害のある方が、余暇活動や生涯学習、社会参加をする場として、50年以上にわたり活動している。 | 学習<br>スポーツ<br>文化芸術 |
| 14 | 石川県 | ボランティアグループ　アンダンテ | 功労者 | 25 | 石川県加賀市において、障害のある人もない人も、子供から大人まで一緒に音楽やダンスを楽しめるコンサートを開催している。 | 文化芸術 |
| 15 | 福井県 | 福井ラプターズ | 功労者 | 51 | 福井ラプターズは、身体障害者および健常者を対象とした車いすバスケットボールチームである。日々の練習だけでなく、県外で開催される大会にも積極的に参加し、広く交流を図っている。車椅子バスケットボールを通じて、 個々の成長と 他者への理解を深め同じ目標に向かって活動する障害者と健常者との融合の場を創出している。 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 16 | 福井県 | レッド・サンズ | 功労者 | 16 | レッド・サンズは、精神障がいを対象としたバレーボールチームである。日々の練習だけでなく、県外遠征や県内で全国規模の大会を運営するなど、県内外にわたり広く交流を図るとともに、バレーボール競技を通じて、精神障がいのある方の社会参加の場を創出している 。 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 17 | 岐阜県 | 岐阜ろう劇団いぶき | 功労者 | 43 | 43年間にわたる手話演劇を通じた、全国各地での舞台芸術文化の振興。手話による演劇等表現活動による聴覚障害者の社会参加の機会の創出。小学校や大学を対象とした青少年への手話講座を通じた、手話演劇を楽しむ文化の醸成。 | 文化芸術<br>普及啓発 |
| 18 | 岐阜県 | 恵那市の障がい児者の生活を豊かにする会 | 功労者 | 34 | 障害のある方々が少しでも住みやすく、生きやすい地域になって欲しいという願いをもとに平成3年に「恵那市の障がい児者の生活を豊かにする会」を設立した。青年の会（青年の余暇活動）、レストハウス「みんなの部屋」（いきいきサロン）、会員交流会（旅行や季節の行事）等を開催しており、地域との交流の場になっている。 | 学習<br>スポーツ<br>文化芸術<br>普及啓発 |

| 番号 | 推薦者名 | 被表彰者名 | 表彰種別 | 通算年数 | 活動内容等 | 活動分野 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 静岡県 | 大塚　康夫 | 功労者 | 44 | 全国障害者スポーツ大会静岡県選手団監督<br>全国障害者スポーツ大会静岡市選手団監督及び団長<br>障がい者スポーツ教室企画運営・指導者育成<br>静岡県障害者スポーツ大会（わかふじスポーツ大会）運営協力<br>フライングディスクを通じたアジア地域での交流活動等 | スポーツ<br>普及啓発 |
| 20 | 愛知県 | バリアフリーミュージカル劇団<br>«夢バッグ» | 功労者 | 14 | バリアフリーミュージカル劇団«夢バッグ»は、「障害を持つ人と持たない人が一緒になって、ひとつのステージを創るミュージカル劇団」として2011年に発足。障害は知的障害の方が主だが、スタッフとして保護者や一般の方が協力し市民に向けて入場無料の公演を実施している。 | 学習<br>文化芸術<br>普及啓発 |
| 21 | 愛知県 | 特定非営利活動法人 パラダイス | 功労者 | 16 | （1）障害者の余暇文化活動支援事業<br>（2）障害者の福祉啓発事業<br>（3）その他本法人の目的を達成するために必要な事業 | 文化芸術<br>学習<br>普及啓発 |
| 22 | 大阪府 | 音訳サークルあい | 功労者 | 40 | 図書や文書の音訳。視覚障がい者個人からの依頼をはじめ、図書館や社会福祉協議会、市役所から広報等や図書の音訳依頼に応えている。また、会独自の「声の雑誌」を年６回製作し、視覚障がい者宅を訪ねて手渡しで配付している。 | 情報保障<br>文化芸術 |
| 23 | 兵庫県 | 豊岡市青い鳥学級運営委員会 | 功労者 | 38 | 視覚障害者が、社会人として幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、広く市民との交流の場を通して相互理解を深め、共に生きる喜びを創造する場を提供している。 | 学習<br>文化芸術 |
| 24 | 兵庫県 | 製菓指導で障害者の自信・やりがい向上 | 奨励活動 | 9 | 障害者と就労支援員にボランティアで製菓の指導・監修を行う。1回限りではなく、複数回の指導により完成まで仕上げる。その過程で、モチベーションが高まるとともに、自信を持って製菓に取り組むなど、「作る喜び」につながり、日常生活でも何事にも前向きに取り組もうとする姿勢が見られるようになるなど、障害者の能力向上と就労につながる質の高い支援活動を行っている。 | 学習<br>普及啓発<br>就労支援 |
| 25 | 鳥取県 | 特定非営利活動法人　鳥の劇場 | 功労者 | 19 | 廃校になった小学校・幼稚園をリノベーションした劇場を本拠地とし、鳥取県内外及び海外でも活動。劇団の人材と演劇のノウハウを生かして、演劇の普及と啓発、人材育成、アウトリーチ活動を行っている。障がいのある人とない人が一緒に演劇作品を作り上げる「じゆう劇場」を2014年より継続的に実施、劇場で作品を発表するだけでなく、学校や公民館等での出張上演やワークショップも行っている。また、米国クイーンズシアターとの連携のもと、障がいを主題とした短編戯曲コンテストを令和5年度から行う。障がい、性別、年齢等の壁を越えた共生社会の実現を、劇場活動の重要な目標としている。 | 文化芸術 |
| 26 | 岡山県 | 社会福祉法人　美咲町社会福祉協議会<br>「みしゃモンカレッジ」 | 奨励活動 | 8 | 美咲町社会福祉協議会が実施する「みしゃモンカレッジ」では、障がいのある人が主になり、地域で「学べる場」「体験できる場」「役割が持てる場」「交流する場」を目的として地域で実施している。活動内容は、これまでにホールスタッフ体験、そば打ち、チョークアート、ダンスなどに取り組んできた。カレッジ生がやってみたいこと、挑戦したいことを内容とし、講師は町内のお達者さんにお願いしている。障がいのある人と地域の人が共に活動をすることで、「地域共生社会」の実現に取り組んでいる。 | 学習<br>文化芸術<br>普及啓発<br>スポーツ |
| 27 | 広島県 | 府中手話サークル　トロッコ | 功労者 | 49 | 手話ボランティア養成講座の開催、手話サークル活動、依頼に応じた手話通訳者の派遣、小学校・中学校での福祉体験学習の講師、ボランティア活動を通じた聴覚障害者との交流、研修会・学習会等への参加。 | 情報保障<br>学習<br>普及啓発 |
| 28 | 広島県 | 点字グループ「あけぼの」 | 功労者 | 46 | 市広報・市議会だより・市社会福祉協議会だより等の点訳、市内小学校・中学校・高等学校で点訳指導、若手活動者の育成、依頼に応じた点訳活動を行っている。 | 情報保障<br>普及啓発<br>学習 |
| 29 | 山口県 | 山口盲ろう者友の会 | 功労者 | 27 | 視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者は、コミュニケーションが難しく、情報も入らず、単独での外出が難しい。その為、盲ろう者の自立と社会参加を促進することを目的に、コミュニケーション支援、日常生活訓練、情報機器の学習、歩行訓練等を行っている。 | 学習<br>スポーツ<br>情報保障<br>普及啓発 |
| 30 | 徳島県 | 秋田　景旨 | 功労者 | 36 | 徳島県障害者スポーツ指導者協議会会長、徳島県ボッチャ協会監事として、指導者の育成に努めるとともに、徳島県パラスポーツ協会の「とくしまパラスポーツ人材バンク」に登録しており、県内各地でパラスポーツの普及促進に携わっている。 | スポーツ |
| 31 | 徳島県 | 徳島県点訳友の会 | 功労者 | 54 | 四国放送ラジオ番組表点字版作成　年２回（４月、10月）<br>点字図書製作<br>点字体験教室での指導<br>徳島県点訳友の会勉強会開催 | 情報保障<br>普及啓発 |
| 32 | 愛媛県 | カウンセリング・アート鼓舞 | 功労者 | 31 | 障害のある子供から大人、家族、支援者を対象に、和太鼓を用いた即興的な太鼓表現活動をNPOや事業所の12団体や特別支援学校２校で行っている。誰でも参加して楽しめる、障害者ファーストで、個々に合ったカウンセリングアプローチで取り組む。 | 文化芸術<br>普及啓発 |
| 33 | 愛媛県 | 伊方町精神保健ボランティアグループ「なぎさ」 | 功労者 | 18 | ・町民に精神保健を中心とした社会福祉に対する理解と活動への参加促進。<br>・精神障害者と地域の橋渡し役として、相互交流の場づくり、イベント等の開催を通して、精神保健福祉に関する正しい知識の普及啓発活動。<br>・周囲との関わりから、生きる喜びや自立に向けた生活支援。 | 普及啓発 |
| 34 | 福岡県 | 大刀洗町障がい児・者親の会<br>「障がいとともにあゆみ隊"ぽけっと"」 | 功労者 | 17 | 平成20年より、障害児・者や配慮を必要とする方々及びその家族が、地域で安心して暮らせるために、障害をもつ当事者と地域住民の交流を目的とした活動（レクリエーションや学習会、関係機関との連携、地域での啓発活動など）を行っている。 | 学習<br>情報保障<br>普及啓発 |
| 35 | 長崎県 | 点訳友の会「ムッツゴロ」 | 功労者 | 34 | 視覚に障害のある方の自立と社会参加の手助けを図るための図書及び広報誌等の点訳、視覚障害者との交流、点訳者の育成を行っている。 | 文化芸術 |
| 36 | 大分県 | 大分心理リハビリテイションの会 | 功労者 | 30 | 発達支援技法である動作法を通して、肢体不自由や知的障がいのある方々の動作の改善と、自立支援のための活動を行っている。大分県脳性まひ児者父母の会と大分県ダウン症連絡協議会「ひまわり会」がそれぞれ主催する活動に携わり、心身両面の支援に加え、参加者同士の交流や保護者の交流、大学生や大学教員との交流を通して生涯にわたって学びを深めている。 | 学習<br>普及啓発 |

| 番号 | 推薦者名 | 被表彰者名 | 表彰種別 | 通算年数 | 活動内容等 | 活動分野 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 大分県 | 日田市手をつなぐ育成会 | 功労者 | 10 | 障害者等が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるようにするため、「浦和太鼓」を通じてコミュニケーションを行い、社会参加することを目的として活動をしている。 | 文化芸術 |
| 38 | 宮崎県 | 国富町音声訳グループ「フレンド」 | 功労者 | 22 | ①町広報誌の視覚障害者の為の音声訳・テープ化<br>②毎月１回講師を招いての勉強会<br>③毎月２回国富町立図書館での読み聞かせ<br>④町内の小学校での読み聞かせ<br>⑤年２回読み聞かせ体験学習会<br>⑥ボランティア講演会等への参加 | 情報保障<br>普及啓発<br>学習 |
| 39 | 鹿児島県 | 鹿児島ふうせんバレーボール協会 | 功労者 | 31 | ふうせんバレーボールを通して、障害のある方と健常者が交流し、相互の健康維持・増進を図るとともに、障害のある方が閉じこもらないように、社会参加意欲を高める一助となることを目的として活動している。また、当事者やその家族同士のつながりを築く場となるよう努めている。市内の各所で活動しているチームによる定期活動の他、月に１回全チームが集う定期合同練習会、年１回の大会開催、審判員・ボランティアの講習会、福祉施設や特別支援学校への出張教室を実施している。 | スポーツ<br>普及啓発<br>学習 |
| 40 | 静岡市 | シズオカノーボーダーズ | 奨励活動 | 7 | (1)障害者を中心にした舞台パフォーマンス発表（年2回程度）<br>(2)障害者と健常者が協力した定期的な稽古の実施<br>(3)全てオリジナル脚本で、自分たちで新しい文化を創造・発信 | 文化芸術 |
| 41 | 福岡市 | 社会福祉法人<br>福岡市身体障害者福祉協会 | 功労者 | 22 | 市内の障害児者を対象に、「創造する楽しさ」「学ぶ喜び」「生きがいを高める」「仲間づくり」など、豊かな日常生活を送る生涯学習の場を提供するため、多彩な文化教室の企画・運営を行っている。 | 学習<br>スポーツ<br>文化芸術<br>普及啓発 |
| 42 | 全国特別支援教育推進連盟 | 中野　泰志 | 功労者 | 37 | 読書バリアフリーを先導し、①バリアフリー書籍の製作、②ボランティア養成、③読書支援技術の普及、④UDフォントの普及、⑤大学図書館との共同製作、⑥法制度の推進のための委員就任、⑦読書の困難さの疑似体験や読書バリアフリーシンポ開催による理解・啓発等の多面的取組を展開してきた。 | 学習<br>情報保障<br>普及啓発 |
| 43 | 全国特別支援教育推進連盟 | 東京都手をつなぐ育成会<br>本人部会　ゆうあい会 | 功労者 | 31 | ゆうあい会は障害のある本人たちが会員となり、日頃の生活や仕事で困ったことの相談をしたり、余暇活動、交流会などの企画や行事を考え、活動を通し仲間を増やしている。日々の暮らしや働き方の制度など障害当事者に関わることについて、行政に対し当事者の声として意見や要望などを伝えるためにも、定期的に意見交換や学習会等の場を設け、自分たちのよりよい生活についての考えを深めている。 | 学習<br>文化芸術<br>情報保障<br>普及啓発 |
| 44 | 日本パラスポーツ協会 | 一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 | 奨励活動 | 30 | 聴覚障害者の卓球の発展を目的とし、普及啓発、強化育成、国際親善、会員相互の親睦を図る活動を行っている。主な事業活動として、全国ろう者卓球選手権や全国ろうあ者卓球リーグ戦の主催、卓球教室の講師派遣、強化合宿、海外遠征の企画運営、総会、理事会などを行っている。 | スポーツ<br>普及啓発<br>情報保障 |
| 45 | 日本パラスポーツ協会 | 一般社団法人日本ゴールボール協会 | 奨励活動 | 30 | ゴールボール競技の普及活動（チャレンジ大会運営・体験会等実施）<br>日本選手権大会運営（年間3回　男女予選会・本選）<br>日本代表チーム強化・育成<br>次世代メンバーの発掘・育成（J-STAR事業活用） | スポーツ<br>普及啓発 |
| 46 | 障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク | わかとり青年学級 | 功労者 | 40 | 在宅の知的障害の方の余暇活動を提供している。現在、年間６回程度の活動をしていて、毎年3月の総会で参加者の意見を聞きながら、年間計画を立て活動している。余暇を楽しむことで生活に潤いや広がりを持っていただき、結果的に企業や作業所からの退職防止に努めている。また、いろいろなところに出かけ、さまざまな体験を通して、社会的なルール、マナー、環境の変化に上手く対応するたくましさを身につけてほしいと考え活動している。 | 余暇活動 |
| 47 | 障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク | こどもの城合唱団 | 功労者 | 40 | 1985年、国立児童総合センター「こどもの城」のオープンに先駆けて結成。「こどもの城」閉館後も、3歳から82歳までの世代や性別、国籍や障害の有無を超えた多様なメンバーが音楽を通したインクルーシブ活動を続けている。全国の子どもたちとの交流、病院や老人ホームなどへの慰問、多くの施設でのワークショップなど、色々な体験を重ねながら活動している。 | 文化芸術<br>学習<br>普及啓発 |
| 48 | 国立大学法人筑波技術大学 | 筑波技術大学障害者スポーツ教室 | 功労者 | 18 | 地域の障害者スポーツ振興を目的とした障害者スポーツイベント及び障害者スポーツ教室の実施。 | スポーツ |
| 49 | 新潟医療福祉大学 | 新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科 障がい者陸上教室 | 奨励活動 | 8 | 新潟医療福祉大学が保有する資源を活用し、地域在住や県外の下肢切断者の方がスポーツ用義足を装着してスポーツ活動を楽しむことができる環境を提供している。また各種受託事業やチャリティー等に参加し、パラスポーツの普及活動を行っている。さらに本学学生がボランティアスタッフとして参加することで障害理解の促進に貢献している。 | 学習<br>スポーツ<br>普及啓発 |
| 50 | フェリス女学院大学 | 引地達也 | 功労者 | 14 | 2011年の東日本大震災における障害者への被害対応をきっかけに、障害者への学びの提供の取組を開始。その後、コロナ禍により集合型の学びが成立しないことを受け、一般社団法人みんなの大学校を設立。重症心身障害者が自宅から参加できるオンライン学習プログラムを毎日提供している。引地氏自身も「音楽でつながろう」や「メディア論」などの講義を担当し、年間延べ1500人が受講している。また、各種メディアを通じた障害者への生涯学習に関する普及にも取り組んでいる。 | 学習<br>普及啓発<br>情報保障<br>文化芸術 |
| 51 | 全国芸術系大学コンソーシアム | 徳島文理大学音楽学部音楽学科音楽療法コース | 奨励活動 | 5 | 「とくしま共生アートプロジェクト推進事業」のひとつとして、大学に設置された音楽療法コースが徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターと協働し、音楽療法の視点を活かした音楽活動を経験する機会を提供している。また、地域社会に開かれたステージでの音楽発表の支援や音楽活動実践者を支援するワークショップも行っている。 | 文化芸術<br>普及啓発 |

岩手県（盛岡市）

# 公民館を活動拠点とした「点訳ボランティア」

■ 団体名・氏名

西部点字パソコンサークル・ステップ

■URL

http://

■ 基本データ

| | |
|---|---|
| 継続年数 | 30年間 |
| 主な連携先 | 盛岡市西部公民館 |
| 団体の規模等 | 約50名 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 対象 | 視覚障害 | | | | | | |
| 活動分野 | 学習 | 文化芸術 | スポーツ | 情報保障 | 普及啓発 | その他 | |

活動の概要

盛岡市西部公民館を拠点として週３日間(火・水・木)の点訳ボランティア活動と点字の入門講座など啓発活動をしています。一般市民、自治体、福祉関連団体等からの点訳依頼を受け、図書や広報・情報紙などの点訳を行うとともに、市民向けに点字体験講座や点訳ボランティア養成講座の実施をとおした啓発及び人材育成にも努めています。

■ 活動内容

点訳活動は、一般書や絵本などを読みながら、パソコンを使って６点入力作業を行います。

入力作業は自宅パソコンで行い、完成した点字データを公民館に持ち寄り、１次校正、２次校正を繰り返し、最終チェックを受けた後に点字プリンターにより点字本を打ち出し完成させます。

点訳する図書などは、一般市民、自治体、福祉関連団体等からの依頼のほか、一部会員による視覚支援学校図書室支援のボランティア活動や視覚障がい者の生活支援対応などを通じて得た情報から検討し選定しています。

視覚障がい者本人からの要望も含め、様々な手段でニーズを把握し点字文書を提供することで、学習の充実や暮らしを豊かに便利にすることにつなげています。完成した点字本は視覚障がい者への郵送貸出や寄贈も行っています。啓発活動としては、点訳ボランティア養成講座の開催、公民館祭の展示資料による活動紹介、小中学校の点訳入門講座の講師対応などに取り組んでいます。



写真１　作業分担や点訳要領申し合せ

■ 活動の経緯・体制

1995年（平成７年）に西部公民館主催の「点字パソコン学習会」の受講後に点訳ボランティア「ステップ」として活動を始めました。現在の会員数は49名で、会長、副会長、会計局長、事務局長の役員と、一次校正者、二次校正者、最終校正者、作業グループ班長の役割分担で活動しています。毎年西部公民館と協力し、点訳ボランティア養成講座の開催、公民館祭の活動紹介などにより会員募集につなげています。



写真２　自宅での入力作業後の読み合わせ確認

■ 活動の工夫・成果

公民館で「点訳ボランティア養成講座」を実施し、これまで多くの受講生がサークルに入会しています。設立時からのこれまでに作成した点字本は「1,773タイトル、4,031巻」、一般貸出総数は「372タイトル、1,256巻」、寄贈総数は「245タイトル、918巻」となりました。点訳依頼の際の点字用紙の持込や作業支援金は経費抑制となっているほか、福祉助成品申請による機器や消耗品の寄贈は大変ありがたいご支援となっています。